

## 腎・透析科

### ■GIO :

将来の専攻科にかかわらず、透析医療の観点から維持透析の適応を理解し、透析による疾病管理の必要性の判断が出来て、患者を適切に管理できるようになるための臨床能力を習得することを目的とする。

### ■SBOs :

1. 透析患者は循環器疾患から糖尿病、消化器疾患などの種々の合併症を有することを理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立できる。
2. 医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなるメンバーと協調できる。
3. 患者の問題を把握し、問題解決型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身につける。
4. 患者および医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身につけ、危機管理に参画できる。
5. チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な、症例呈示と意見交換を行うことができる。
6. 医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献できる。
7. 患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接が実施できる。
8. 特に腎不全の病態の正確な把握ができるように、全身の系統的身体診察を実施し、維持透析の適応を診断し、シャント手術の説明を実施できる。
9. 腎不全の病態の正確な把握をもとに透析患者の全身管理に必要な基本的臨床検査を計画し、日常診療を実施できる。
10. 主に腎不全の症状・病態から正確な診断ができ、初期治療ができる。
11. 初期治療の実施とともに、維持透析への適応を把握できる。
12. 維持透析の継続のため、主にシャントトラブルとその修復法も理解する。

### ■LS :

- 1 ; 透析原理の理解
- 2 ; 透析回路の組み立てを行なう
- 3 ; 透析シャント穿刺を行う。
- 4 ; 各種透析内容の把握
  - ① HD、CHDF、HDF、ECUM
  - ② LDL Apheresis
  - ③ PMX によるエンドトキシン吸着、GCAP、LCAP の実施
  - ④ 腹膜透析
  - ⑤ 腹水濃縮ろ過
  - ⑥ ダイアライザーの種類による使い分け
- 5 ; 透析導入方法
- 6 ; 透析における治療評価と治療と対策(月 2 回採血の意義)
  - ① DW の決め方
  - ② CTR、EKG、hANP、BNP、UCG、Homed BP
  - ③ 貧血(Hb、TSAT、ferritin、Reticulocyte)
  - ④ CKD-MBD(P、Ca、iPTH)
  - ⑤ UA
  - ⑥ DM(HbA1c、GA)
  - ⑦ PCR、Kt/V
- 7 ; 透析合併症
  - ① 3 大合併症 (不眠、便秘、かゆみ)
  - ② 動脈硬化の評価  
(PAD に関する視診、PWV-ABI、頭部 CT、MRI、頸動脈エコー、下肢動脈エコー、胸腹部 CT、腹部エコー)
  - ③ 透析時低血圧、高血圧
  - ④ 内シャント狭窄および閉塞、シャント瘤、過剰血流

【週間予定表】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	透析センター	透析センター	透析センター	透析センター	透析センター	透析センター
午後	病棟業務	P T A	病棟業務	透析センター	病棟業務	透析センター

■Ev :

1. 自己評価：EPOC による形成的評価
2. 指導医による評価：EPOC による形成的評価と総括的評価
3. 看護部、コメディカル等による 360° 評価：独自形式による形成的評価

研修目標とワークシート評価（0 まったく出来ない、1 出来ない、2 あまり出来ない、3 普通、4 出来た、5 よく出来た）

研修開始時研修医自己評価

1:目標となる能力	透析療法の必要性が判断できる			
2:対応するコア・コンピテンス	■コミュニケーション ■チーム医療 ■医学知識と問題対応 ■安全管理 ■患者へのケアと診療技術 ■医療の社会性 ■プロフェッショナリズム ■科学的探究と生涯学習			
3:必要な要素・行動と終了時の能力段階				
②経験が出来る③上級医のもとで実践できる④日常診療で実施できる⑤迅速で精通している				
	知識	技能	態度	能力段階
透析原理を理解している	○			⑤
透析回路の組み立てを行なう	○	○		④
透析シャント穿刺を行う。	○	○		④
各種透析内容の把握ができる	○			②
透析導入方法がわかる	○	○		②
バスキュラーアクセスの作成	○	○		②
透析における治療評価と治療と対策ができる	○	○		②
透析合併症がわかり、対応が出来る。	○	○		②
医師以外の職種に配慮した医学用語を用いる	○	○	○	④
他の医療者と良好なコミュニケーションが取れる	○		○	②